

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.11 No.1

河北潟クリーン作戦に500名の市民が参加



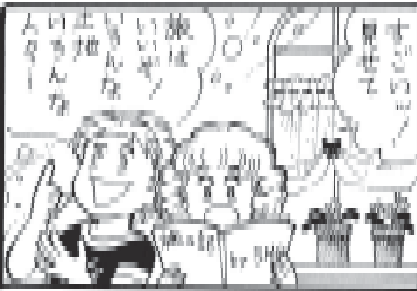
各ステーションでのゴミ拾いの様子

第11回「河北潟クリーン作戦」は、湖岸の草が伸びていない4月17日（日）におこなわれました。河北潟自然再生協議会に参加する団体や個人とともに、多くの団体やボランティアの方々、昨年の約2倍の約500名が河北潟の湖岸7地点に分かれてゴミ拾いをおこないました。

競馬場裏のステーションでは、バス釣りグループなどの若い人たちが中心になって、胴長を履いての湖岸清掃をおこない、投棄された古タイヤやテレビを回収しました。大崎公

園では、勤労者ボランティアセンターの年配の方々や石川県土木部の職員が、湖岸に流れ着いたゴミなどを清掃しました。才田大橋や内灘橋のステーションでは、ライオンズクラブの方々や婦人会、地元の方々、金沢市環境部の職員のみなさん、一般参加の方々などが、1000袋以上のゴミを回収しました。また、ふなつりの方々もゴミ拾いを行いました。湖南大橋のステーションでは、カヌーを出してのゴミ回収や河北潟沿岸土地改良区や土木業者の方々に参加しました。

河北潟の沿岸を通って行った人々⑤



十返舎 一九(じっぺんしゃ いっく 1765 ~ 1831)

「東海道中膝栗毛」を書いた十返舎一九は、その姉妹編として「方言修行 金の草鞋(むだしゅぎょう かねのわらじ)」を書いている。「むだ」は武者修行の「むしゃ」をもじったもの。その一部、石動～金沢に関する箇所を紹介する。

石動の宿を離れて、俱利伽羅峠にかかる。この処昔時(ところむかし)木曾義仲平家と戦ひし古戦場なり、峠に俱利伽羅不動の社あり、此の処(このところ)立場の茶屋、いずれも広く精麗にて、東海道の茶屋の如く、この街道には、珍しく良き茶屋にて、砂糖餅名物なり、此の処は越中加賀の国境なり。

商ひに 利生ぞあらん 俱利伽羅の 不動の前の
茶屋の賑わひ
爰元は 柴栗からの 茶屋なれや はかりこむ程
往來の客

と二首の狂歌を詠んでいる。(中略)

俱利伽羅峠よりはにみ(埴生の誤りか?)を過ぎて、竹の橋の宿なり、此先(このさき)に杉のせ坂あり、夫(それ)より津端(つばた 原文のまま)の宿に至る。

一と群に 来たる同者の旅雀 しなよく 宿る
竹のはし宿

この後、馬子と侍の滑稽な会話があって津端(幡)に着く。

津端の宿、追分(おいわけ 分かれ道のこと)あり、左の方登へ行く道なり、直(すぐ)に行けば金沢道、中條大田二日市を過ぎて、森本という処より、川尻へも行く道あり、此の処よりかなざわへ四里。

紫の 霞棚引く 春の日や ここも名に負ふ
かきつばた宿

この後、法師の女自慢があって、金沢に着く。

俱利伽羅と埴生の位置、追分から能登・金沢へ方向、森本と川尻の位置関係は誤り。かきつばたの狂歌は「伊勢物語」の八橋(やつはし)からの連想であろう。この道中記は「鼻毛の延高(はなげののびたか)」と僧の「千久良坊(ちくらぼう)」のコンビが江戸から東北、北陸を経て全国を周る趣向で、全二十五編。上巻は十八編。(加賀能登の古典文学 能登印刷出版より)

一九は道中案内記などを使って想像で書いたのかもしれない。

(河北潟歴史委員会 宮本 眞晴)

2004 年度河北潟研究奨励助成の成果について

専門的知識を持った学生や研究者の方々の学術研究に対して助成をおこなうことにより、研究者のネットワークを広げるとともに、河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積を図ることを目的として、2004 年度河北潟研究奨励助成が昨年 5 月に公募されました。

河北潟湖沼研究所としてはじめの助成事業でしたが、厳正な審査の結果、応募のあった以下の 3 名の方々に助成がおこなわれました。

申請者 飯田 淳一

研究課題 「小学校の総合的な学習の時間における身近な自然をテーマにした環境学習のあり方を探る」

申請者 野村 卓之

研究課題 「河北潟地域の陸・淡水産貝類相調査」

申請者 川原 奈苗

研究課題 「河北潟に生息する哺乳類」

このたび 1 年間の研究成果をまとめた報告書が、3 名より提出されましたので、今号と次号の 2 回に分けて、その概要をお知らせします。

助成研究 1

「小学校の総合的な学習の時間における身近な自然をテーマにした環境学習のあり方を探る」

飯田 淳一

河北潟周辺の小学校の総合的な学習の時間における、身近な自然環境をテーマにした環境学習の実態を調査し、これからの環境学習のための支援のあり方を考えた。

実際に河北潟やその周辺を取り上げて学習を進めている学校はどれだけあるのかを知るために、河北潟周辺の 18 の小学校へアンケート調査を実施した。環境学習で河北潟を取り上げている学校はあまり多くなく、その理由として、「地域の情報（人材・場所）を整理」

すべきと感じている学校が多かった。

身近な地域の自然を調べその保全を考えることは、環境問題について理解を深め、持続可能な社会を作ろうとする思いを高めやすい。しかし地域の情報を集めることは意外に時間と手間がかかり、これまで十分な資料を手に入れることはなかなか難しかった。そこで、地域にある河北潟を中心に情報を蓄積し、周辺の学校で環境について学習する際の学習活動の支援を行う学習支援教材を設計し、開発を行った。更新のしやすさや利用の形態に応じて web ページとして提供することとした。

設計のコンセプトとして、おもに以下の 3 点を考えた。

内容の充実・精選

インターフェイスの工夫

体験活動へとつながるはたらきかけ

利用形態としては

- ・指導者が単元を組むときの参考資料、および学習者への支援の参考資料
- ・学習者が課題を設計し追求する際の資料として使えるものを目指した。

インターフェイスの工夫として、河北潟の基本情報を掲載する「河北潟資料館」、河北潟で行われるイベントと主催者を紹介する「参加してみよう」、調べたい課題づくりと調べ活動のヒントを紹介する「調べてみよう・人・水・自然」の 3 つのカテゴリーで構成した。

（この文は、各申請者より提出された報告書を研究所金沢事務局がまとめたものです）

2005 年度河北潟研究奨励助成募集

1 件につき 10 万円を上限とします。募集件数は 1 件以上（助成基金の充足状況により複数件）とします。助成期間は、平成 17 年 7 月～18 年 6 月。応募の締切は平成 17 年 8 月 15 日（消印有効）。詳しくは <http://kahoku.soc.or.jp>、または研究所金沢事務局まで。

お知らせ

第43回河北潟自然観察会と「河北潟おもしろ体験の日」のお知らせ

第43回河北潟自然観察会は、以下の要領で開催します。

日時：2005年8月7日（日）午後6時～8時
（夕方からの開催です。ご注意ください）

集合場所：こなん水辺公園駐車場（金沢市東蚊爪）（金沢駅より自動車に便乗できますのでお問い合わせ下さい）

内容：河北潟の夕暮れの情景を堪能しつつ、ツバメのねぐら入りを観察します。

観察会終了後は恒例のバーベキューをおこないます（参加費（材料費）1000円＋飲み物各自持参）

同日、河北潟自然再生協議会が主催する「河北潟おもしろ自然発見の日」がおこなわれます。以下のような盛りだくさんの企画が用意されています。

1. おもしろカヌー体験 9:00-12:00 こなん水辺公園
2. こども何でも釣り教室 8:00-10:00 宇ノ気水辺公園
3. みんなでできる「河北潟ホタル&巻貝調査」9:00-11:00 こなん水辺公園

河北潟湖沼研究所の主催する今回の河北潟自然観察会も「おもしろ自然体験の日」とのジョイント企画となっています。どの企画も基本的にどなたでも参加いただけます。詳しくは金沢事務局（このページの右下）までお問い合わせ下さい。

河北潟グリーン作戦を実施 - 湖岸にヤナギを植栽 -

4月17日に「河北潟クリーン作戦」にあわせて湖岸の「河北潟グリーンGreen作戦」がおこなわれました。

これは、金沢競馬場裏の湖岸の浅瀬に、近くに自生するカワラヤナギなどのヤナギ類の

枝を剪定し、挿し木と粗朶堤防により植栽する取り組みです。

河北潟の湖岸の植生を回復するための取り組みとしては、すでに湖岸堤防改修にあたって、県によりヨシの植栽が実施されていますが、今回は、サギ類の止まり木や多くの水辺の動物の隠れ家となるヤナギ類を、市民自らの手で増やそうということから、実施されました。約30名が参加し、粗朶堤防づくりのくい打ちや土嚢への泥の詰め込み、最後にヤナギの挿し木をおこないました。

その後ヤナギ類は順調に定着して、徐々に生長しています。河北潟の湖岸堤防は沈降が激しく、かつて堤防沖に見られた湖岸植生が失われている場所が見られますが、今後、生物多様性の高い湖岸を復元する上で、こうした市民による、きめ細かな取り組みが重要となると思われます。



< 編集後記 >

クリーン作戦と同日におこなわれたヤナギ植栽は、それ自体は小さな取り組みですが、市民が自ら取り組んだ河北潟の自然再生として、画期的な出来事だったと思います。冬季湛水水田とともに、今後拡げていきたい活動です。（T）

「かほくがた」 VOL.11 NO.1

2005年7月26日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL: 076-261-6951 FAX: 076-265-3435